



公立大学法人 **和歌山県立医科大学**
学部案内

- 保健看護学部
- 大学院保健看護学研究科 博士前期課程／博士後期課程
- 助産学専攻科



大学の教育理念

和歌山県立医科大学は、医学、保健看護学及び薬学に関する基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材を育成することにより、和歌山県の医療、保健の充実を図り、もって文化の進展と人類の健康福祉の向上に寄与する。

1804年、医聖華岡青洲が、曼陀羅華を主成分とする麻酔薬「通仙散」を完成させ、乳がん摘出手術を成功させました。



新しいことに挑戦する心を常に持ち、既存の知識や技術を発展させることができる医療人を目指しませんか。

沿革

- 平成8年4月 和歌山県立医科大学看護短期大学部開学
- 平成16年4月 保健看護学部開設
- 平成19年3月 看護短期大学部閉学
- 平成20年4月 大学院保健看護学研究科修士課程及び助産学専攻科開設
- 平成25年4月 大学院保健看護学研究科博士後期課程開設
- 平成26年4月 大学院保健看護学研究科がん看護専門看護師コース開設

contents

大学の教育理念・沿革	1	取得できる学位・資格	18
学長・学部長メッセージ	2	大学院保健看護学研究科教育プログラム	19
保健看護学部教育プログラム	3	大学院生メッセージ	21
キャンパスカレンダー	12	助産学専攻科教育プログラム	22
キャンパスライフ	13	修了生メッセージ	24
クラブ紹介	15	学生サポート	25
社会で活躍する卒業生	17	三葛キャンパスマップ	26



医療系総合大学で学ぶ全人的看護

和歌山県立医科大学保健看護学部は1996年に開学した看護短期大学部を前身とし、2004年4月に4年制大学として開設されました。2008年には、助産学専攻科および保健看護学研究科博士前期課程(修士課程)、2013年には後期課程(博士課程)が設置され、さらに2014年には博士前期課程の中になん看護専門看護師コースを開設し、保健看護の実践、教育、研究において、より専門性の高い看護系の大学として大きく発展してきました。

保健看護学部は、豊かな人間性と高邁な倫理観を育むと同時に高度な専門的知識と技術を教授し、多様化、高度化する医療の現場での質の高い看護はもとより、地域の保健・福祉ニーズに応えることができる人材の育成を目指します。そのために、生命の尊厳を基盤にした豊かな人間性の涵養、個人を尊重し、信頼関係を築くコミュニケーション能力の育成、さらに科学的思考力と技術に基づいた実践力を培います。

また、本学は2021年4月には3つ目の学部として薬学部が開設され、医・看・薬の3学部から成る医療系総合大学となりました。医療系総合大学の特徴を生かして行っている3学部合同ケアマインド教育では、医療人としての知識・技能の修得のみならず、病める人の立場で考えられる医療人となるための豊かな心の涵養を図ります。そして、3学部の多職種連携教育を通して、職種間の相互理解と患者中心の医療を行うための基本的な考え方を学習します。

本学は医療系総合大学として、地域を支え、世界に挑戦し、未来の医療を築く医療人の育成を目標に掲げています。そして、保健看護学部では学生一人一人の自主的な学びを重視し、幅広い教養と倫理観に基づく全人的な看護の精神を身に付けられる充実したカリキュラムを整えています。和歌山県立医科大学保健看護学部で一緒に学びましょう。



和歌山県立医科大学
理事長・学長
中尾直之

共に人々の健康を支える保健看護職を目指そう

本学の保健看護学部は、1996年に開学した看護短期大学部を前身として、2004年に4年制大学として開設されました。設置の目的は「多様化、高度化する健康・福祉ニーズに応えることができる資質の高い保健看護専門職を育成し、この分野に関する県下の教育・研究・研修において、地域の中核機関として役割・機能を果たし、もって地域社会の健康・福祉の向上と人類の健康文化の進展に寄与すること」です。設置から20年が経ち、現在、多くの卒業生が保健看護職として活躍しています。活躍の場は、病院や訪問看護ステーション、都道府県や市町村、企業、福祉施設等、保健・医療・福祉のあらゆる場にいたりします。養護教諭として学校で子どもたちの健康管理に努めている方もいます。

さらに保健看護の実践・研究を深めたい人には、助産学専攻科と保健看護学研究科博士前期・後期課程が用意されています。修了生は専門職として活躍し、地域の保健・医療・福祉の質向上に努めています。大学教員として教育・研究に携わっている方もいます。

保健看護職は人々の健康とウェルビーイング(well-being)の促進を目指し、たゆまぬ努力をしています。そのためには、主体的に学ぶことが大切です。本学では、主体的に学べるように、初年次には自ら課題を発見し学習していけるように少人数で学べる教養セミナーを実施しています。また、学生の自主性を重視した学生自主カリキュラムという学習支援もあります。そして、より良い看護を行うには、相手を大切に思い、全人的に理解していく必要があります。ケアマインドを培い、幅広い教養と知識が身につけられる充実したカリキュラムを用意しています。さらに、国際的に活躍できるようにグローバルな視点も大切にし、国際交流活動のプログラムにも力を入れています。

共に人々の健康を支えるために保健看護学を学んでいきましょう。



保健看護学部
学部長
水田真由美



教育理念

豊かな人間性、高邁な倫理観を育み、先進的、高度な専門的知識と技術を教授し、科学・技術の進展と、健康・福祉に関する社会の要請に柔軟かつ創造的に対応でき、保健看護の実践、教育、研究など広い分野での活躍が期待できる資質の高い人材を育成します。

教育目標

生命の尊厳と幅広い教養を基盤にした
豊かな人間性と高邁な倫理観の涵養

個人を尊重し、全人的理解と信頼関係を築く、
優れたコミュニケーション能力の育成

種々の関連職種とチームワークができる
協調性に富む人材の育成

科学的思考力、高度な専門的知識と技術に
基づいた実践力と創造力の育成

生涯にわたり自己啓発し、社会の多様な
ニーズに対応できる人材の育成



アドミッションポリシー (入学受入方針)

■ 保健看護学部は次のような学生を求めています。

1. 科学的探究心と豊かな人間性・高邁な倫理観を希求する人

保健看護学を志す人には旺盛な科学的探究心とともに、深い人間性と高い倫理観が必要です。豊かな感性と高邁な人間性をつねに求め、利他の精神を忘れることなく社会と深く関わり、高い倫理観を磨こうと努める人を求めます。

2. 保健看護学を修得するための幅広い能力を有する人

保健看護学の修得には自然科学のみならず、人文科学と社会科学の修得も必要です。そのためには、高等学校で学習する全科目にわたって基礎的な学力を身につけていなければなりません。それに立脚し、自然・人間・社会に関する幅広い理解と知識を獲得しようとする向学心と問題解決能力を持つ人を求めます。

3. コミュニケーション能力と指導力を備えた協調性の高い人

卒業後は医療チームの一員として、患者やご家族と良好な人間関係を築く能力が必要になります。医療人として高邁な理念を堅持するとともに、他者との協調関係を築くために、指導力を発揮できる人を求めます。

4. 地域医療に関心があり、国際的視野を希求する人

本学は県民の医療を支えるとともに、国際的にも活躍できる医療人を育成します。人間への深い関心に根ざして、地域医療への奉仕に励むとともに地球規模で医療を俯瞰し国際社会で活躍する医療人になることをめざす人を求めます。

5. 生涯にわたって自立と自律をめざす人

学修の機会を与えられたことに対して将来、社会に貢献するという働き方を志し、生涯にわたって自立・自律しながら自己研鑽を積むことをめざす人を求めます。



カリキュラムポリシー (教育課程方針)

1. 教育課程編成

ディプロマポリシーに掲げる知識と能力を修得するために、「教養と人間学の領域」「保健看護学の基盤となる領域」「保健看護学の専門となる領域」の3領域の構成で、専門分野の枠を超えた横断的・統合的な教育を提供します。人々の生活に焦点を当て、保健・医療・福祉を包括的に学べる教育を行います。



2. 教育内容・方法

- 1) 「教養と人間学の領域」では、社会人として必要な自然科学、人文・社会科学および外国語に関する教養を修得できる教育を行います。また、医療人として必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力、ケアマインドを培えるよう、少人数グループによる課題解決型学習を含む教育を行います。
- 2) 「保健看護学の基盤となる領域」では、系統的に生体の構造と機能、病態、疾患の概念が理解できるとともに、問題解決能力と研究的思考の基盤を築けるような教育を行います。
- 3) 「保健看護学の専門となる領域」では、人間を理解し、あらゆる状況に柔軟に対応し、的確な判断能力と問題解決能力を養える教育を行います。また、臨地実習においては、保健看護の実践能力を獲得できる教育を行います。さらに、地域との交流および国際交流を積極的に行い、広い視野をもち、地域社会および国際社会で活躍できる人材となれる教育を行います。

3. 学修成果の評価方法

シラバスに記載された学修目標について、授業中の小テストや発表、レポート、筆記試験、実技試験などの多面的な評価方法により、それぞれの到達状況を客観的に評価します。

ディプロマポリシー (学位授与方針)

- 幅広い教養を身につけ、多様な文化や価値観を理解し、人々の尊厳や権利を尊重することができる。
- 看護の対象となる人々と信頼関係を築くコミュニケーションができ、援助関係を形成することができる。
- 看護の対象となる人々を、生活者として全人的に捉え、個人・家族や地域の健康課題を明らかにすることができる。
- 看護実践に必要な知識や技術を習得し、根拠に基づく判断の上、健康課題の解決に取り組むことができる。
- 保健医療福祉チームの一員として看護職や他職種・地域住民等と協働・連携を図るために主体的に行動できる。
- 地域的・国際的視野で社会の動向とともに変動する多様な健康課題を捉え、看護の役割や課題を検討し、看護の発展に向けて創意・工夫することができる。
- 看護専門職としての自覚を持ち、生涯にわたって主体的に自己研鑽や研究に取り組む自律的態度を身につけている。



カリキュラムの特徴

充実した教養、基礎教育

保健看護職には、全人的な人間の理解に基づいた人への思いやりや優しさが必要です。「教養と人間学の領域」では、学習意欲にあふれ、倫理的で思いやりのある人材を育て、豊かな人間性及び優れたコミュニケーション能力の育成を目的としています。個々の学生の様々な関心に対応できるように、選択履修科目を多数取り入れています。

人間理解を深め、人々の健康を 支援するための基盤を形成

「保健看護学の基盤となる領域」では、保健看護学の土台となる「人間と生命倫理」「保健と福祉」「健康と病態」を学び、保健看護専門職の基盤を形成することを目的としています。

問題解決能力、判断力、研究 能力を育てる専門教育

人間を理解し、あらゆる状況に柔軟に対応できるように、洞察力、問題解決能力、判断力などを身につけることを目的としています。授業は、講義だけでなく、演習や実験、実習等を取り入れ、少人数による学習を積極的に取り入れ、体験的・自主的に学習できるように工夫しています。

保健・医療・福祉の包括的学習

人々の生活に視点を当て、保健・医療・福祉を包括的に学べるようにしています。実習では、暮らしを通じて学習できるように、病院のみでなく、保健センター、訪問看護ステーション、助産院、保育所、企業、介護老人保健施設などで実習できるようにしています。

医療入門（ケアマインド教育） 1年次



医学部、薬学部の学生とともに患者・家族の立場から物事を考えられる視点を養います

教養セミナー 1年次



写真やキーワードから連想を広げ、自ら問題を発見し、情報収集と思考鍛錬を行う少人数ゼミです

基礎看護実習Ⅱ 2年次



対象者が安全・安楽に診療を受けられるように、基礎的知識・技術を学びます



授業科目

「教養と人間学の領域」「保健看護学の基盤となる領域」「保健看護学の専門となる領域」の3領域で構成され、専門分野の枠を超えた横断的・統合的な学習ができるようにしています。

和歌山県立医科大学保健看護学部カリキュラム

分野	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
保健看護学の専門となる領域	総合保健看護	<ul style="list-style-type: none"> *マークは選択科目 ★マークは保健師コース必修 ☆マークは看護師充実コース必修 ➡は関連を示す <p>国際交流活動(演習)* } (1~4年次の選択科目) 地域交流活動(演習)* }</p>	災害看護論	保健看護研究 I } 保健看護研究 II } 保健看護管理演習 } 保健看護管理論 } 国際保健論 } 保健看護英語* } 看護教育論* }	国際保健論 } 保健看護英語* } 看護教育論* }
	臨床実習	基礎看護実習 I	基礎看護実習 II } 統合実習 I	保健看護実習 A (母性) } 保健看護実習 B (小児) } 保健看護実習 C (老年) } 保健看護実習 D (精神) } 慢性期看護実習 } 急性期看護実習 } 在宅看護実習 } 公衆衛生看護実習 I・II★ } 統合実習 II	統合実習 II
	健康障害と保健看護		慢性期看護論 I } 急性期看護論 I } リハビリテーション看護論 } 子どもと健康 I } メンタルヘルス学 I } 健康と看護 I (成人) } 健康と看護 II (老年) } 健康と看護 III (精神) }	慢性期看護論 II } 急性期看護論 II } 終末期看護論 } 子どもと健康 II } 高齢者と健康 } メンタルヘルス学 II }	リエゾン精神看護学*
	ライフステージと保健看護	ライフステージと看護 I (母性) } ライフステージと看護 II (小児) } ライフステージと看護 III (成人) } ライフステージと看護 IV (老年) }	性と生殖 II	女性と健康 } 学齢期の保健* }	
	生活と保健看護	生活の場と看護 I	生活の場と看護 II } 家族と看護 } 公衆衛生看護活動論 I } 公衆衛生看護方法論 I }	在宅看護論 } 公衆衛生看護活動論 II★ } 公衆衛生看護方法論 II★ }	保健医療経済論*★
	基礎看護	看護方法論 I (生活援助) } ヘルスアセスメント } 看護活動論 } 人間理解と看護 } 保健看護学入門 } 早期体験学習 }	看護方法論 II (看護過程) } 看護方法論 III (医療技術) }	看護方法論 IV (療しと看護)* }	
保健看護学の基盤となる領域	人間と生命倫理	発達心理学*	人間関係論 } 生命倫理 }	医療哲学* } 精神療法(心理療法)* }	
	保健と福祉		保健統計学 } 公衆衛生学 } 産業保健論 } 環境保健論★ } 社会福祉概論 } 社会福祉活動論 } リハビリテーション }	疫学 } 保健行政論 }	
	健康と病態	基礎病態学 } 健康科学 } 身体の構造と機能 }	慢性期病態学 I } 慢性期病態学 II (小児) } 急性期病態学 } 性と生殖 I } 基礎薬理学 } 救急医療(災害医療含む) }	総合病態学 } 終末期医療 } 健康教育論*★ } 臨床薬理学*★ }	
教養と人間学の領域	人間の理解	こころの科学* } 人と倫理* } 文学* } 人間と文化* }			
	社会の理解	現代の家族問題* } 生活の科学と健康* } 経済学* } 法学(日本国憲法)* }			
	科学の理解	保健看護の物理学* } 保健看護の生物学* } 生命と遺伝* } 食の科学* } 食の科学演習* } 保健・スポーツ* } 運動の科学 }			
	コミュニケーション	英語 I } 英会話 } 情報科学 I } 情報科学 II } ケアマインド教育 } 中国語 I* } 中国語 II* } 感性と芸術* }	英語 II } 英語 III }	英語 IV* } 医療コミュニケーション*	
	教養セミナー	教養セミナー			

地域の人々との交流から 暮らしと健康との関連を学びます

早期体験学習 1年次



入学後の早期に、地域に出向いて、そこで生活している人々との関わりや様々な体験を通して、暮らしと環境について理解し健康との関連について学びます

統合実習Ⅰ 2年次



地域で暮らす様々な発達段階にある人々の健康・生活を知り、健康・生活を守るための支援のあり方について学びます

【実習施設】

- ・保健所、市町村・保健センター
- ・子育て支援施設
- ・こども園・保育園
- ・小学校
- ・企業 等

保健師コースは、和歌山県内の保健所、市町村保健センターに出向いて、住民の生活や環境から健康問題を捉え、それを解決するための方法を考え、実践します。地域を歩いて回ったり、家庭訪問をしたりするので、保健師活動を実践的に学べる楽しさを実感できます。学生たちで考えた健康講座は住民のみなさんに大変喜ばれ、とてもやりがいがあります。

コース選択を希望する学生が多いと、成績で選抜されるのですが、地域の視点を深く学ぶために、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

公衆衛生看護実習 3～4年次

(保健師コース選択生のみ)





保健看護実習A (母性)



新生児と母親の命を守ります

保健看護実習B (小児)



子どもの成長・発達を支えます

保健看護実習C (老年)



人生の先輩から生き方を学びます

看護を通して、人として成長します

保健看護実習D (精神)



自己を知る事が心の看護の基本です

慢性期看護実習



療養生活を支える看護を学びます

急性期看護実習



術衣を着ると緊張感が走ります

在宅看護実習



自宅での療養を支えます

統合実習Ⅱ



自ら計画を立て、実施した実習の成果を発表します

**和歌山県立医科大学附属病院を中心に
和歌山県内の医療・保健・福祉施設で学ぶ**



和歌山県立医科大学附属病院には、医学・保健看護学・薬学を学ぶ学生が医療を体験・習得する医療教育機関としての性格と、高度な医療技術と優秀な医療スタッフによる優れた医療を地域社会に提供する中枢的な医療機関としての役割があります。現代の高度な医療の進歩は目覚ましく、新しい医療の吸収と展開は、教育・研究を柱とする大学機関に附属する医療機関によってこそ可能です。常に優秀な人材の確保と医療システムの最適化を図り、広く地域社会に医療の還元を図ることが附属病院の使命です。

その他、和歌山県内の各施設が実習をサポート！

- ・和歌山県立医科大学附属病院紀北分院
- ・和歌山ろうさい病院
- ・ひだか病院
- ・南和歌山医療センター
- ・白浜はまゆう病院
- ・和歌山県立こころの医療センター
- ・和歌山県内の訪問看護ステーション、保健所、市町村保健センター
助産施設、老人福祉施設、障害者福祉施設、企業 等

交流し、
人間性を高め
ます。課外活動
を通して、異文
化や多世代と

地域交流活動

地域の特性から住民の生活状態や健康問題を理解し、医療に対する住民のニーズを捉えます。ボランティア活動や本学独自の助成制度「学生自主カリキュラム」などの自主的な活動を通して、チームワークや行動力を養います。

大学が認定する地域交流活動に参加するとポイントが加算され、通算 20 ポイントを得た場合に単位を認定しています。

学生自主カリキュラム

学生が自らの自由な発想と意思で学びたい活動を計画し、生きた知識を獲得し、さらに学びを深めていくことを目的とした学習支援プログラムです。

命の尊さを伝える性教育

学生自主カリキュラムの一環として、高校生を対象に「命の尊さを伝える性教育」を実施しました。実施にあたり、事前に学校を訪問し、生徒の様子を観察するとともに、養護教諭へのヒアリングを通して、学校生活や性に関する課題を把握しました。そこで、単なる知識提供にとどまらず、「同意」や「命の重み」について考えることができる授業構成としました。当日は文化祭という機会でもあり、参加者を集めることに苦労しましたが、グループワークを取り入れ、生徒一人ひとりの考えに耳を傾けることを大切にしました。本活動を通して、相手の立場に立って伝える力や、主体的な学びの場を創り出す実践力を身に付けることができました。



4年生：辻井穂乃花さん・前野友花さん・山本莉里さん

和歌山県で暮らす精神障がい者に対する支援の声のかけ方、接し方を知る



地域で暮らす精神障がい者を支援するさまざまな施設に訪問し、

そこでどのような支援が行われているのか、精神保健医療福祉の専門職者はどのように精神障がい者にかかわっているのかを見学しました。私たちは今回の活動で、御坊・日高地域活動支援センター、基幹相談支援センター、三重県立子ども心身発達医療センターの3施設を訪問しました。就労継続支援施設やユニバーサルカフェといった、精神障がい者の暮らしや活動の場を見学し、精神障がい者と実際に話すとても貴重な体験をすることができました。さらに、事例検討会や退院に向けたカンファレンスに参加させていただき、

講義や教科書で得た知識が現場でどのように実践されているのか、支援への理解がより深まりました。

3年生：橙 知里さん・長沼祐奈さん・松田 薫さん・御前心優さん

看護学生フォーラム

看護学生交流会は、看護に関する学びを深めるとともに、学校の枠を超えた学生同士の交流を目的として、和歌山県内の看護学生が一堂に会し、講演や交流企画が、年に1回開催されています。本交流会の企画・運営は、看護学生が主体となった運営委員が行っており、今年度は本学の学生が委員長を務めました。当日は和歌山県民文化会館にて、昨年度に続き対面形式で、県内8校の看護学生が集まり、開催されました。

今回のテーマは、「地域医療～和歌山県の過疎地域等における医療と看護について考える～」となり、和歌山県の地域医療の現状や課題、そこにおける看護師の役割について学ぶ機会となりました。講演を通して、地域医療における看護職の必要性を受け止めるとともに、そこから看護職として地域医療に関わっていく上でどのようなことが必要かを考えることができました。

交流企画として、アイスブレイクでは他己紹介を行いました。2人1組で自己紹介を行った後、10人程度のグループに分かれ、ペアで紹介し合った内容をグループ内で発表する形式としました。初対面同士でも自然と会話が生まれ、参加者同士の距離が縮まるきっかけとなりました。





また、レクリエーションでは国試問題と、時事・流行、和歌山に関する内容を織り交ぜた全20問のクイズを実施しました。国試問題だけでなく、身近な話題や地域に関連した問題を取り入れることで、固くなりすぎず、楽しみながら学べる雰囲気生まれ、学生同士の交流がさらに深まりました。

本交流会の開催に向けて、運営委員会では複数回の会議を重ね、参加者にとって学びと交流の両方が得られる機会となるよう試行錯誤を続けてきました。当日は、多くの笑顔や活発な意見交換が見られ、準備してきた成果を実感することができました。本活動を通して、企画力や協調性、コミュニケーション能力の重要性を学ぶとともに、他校の学生とつながる貴重な経験となりました。

令和7年度看護学生フォーラム委員：

大前沙帆さん・北村佳乃子さん・小守奏嘉さん・坂口璃桜さん・田中萌愛さん

国際交流活動

教育・研究両面で活発な交流

<主な協定状況>

昭和61年 山東大学（中国） 学術交流

平成16年 山東大学（中国） 学生交流

平成18年 本学に国際交流センターを設置

マヒドン大学（タイ） 学術交流・学生交流

平成19年 香港中文大学 学術交流・学生交流

平成25年 プラパ大学（タイ） 学術交流・学生交流

平成28年 ヤンゴン看護大学（ミャンマー） 学術交流

令和5年 ビクトリア大学（カナダ） 学生交流

☆山東大学（中国）とは協定を締結して以来、両大学の学生が相互に訪問し、積極的に交流しています。



アメリカ糖尿病児キャンプへ参加して

アメリカ・マサチューセッツ州にある非営利団体 The Barton Center for Diabetes Education 主催の1型糖尿病児の生活の改善を目的としたプログラムに参加し、キャンプの医療スタッフの指導下で、ボランティアスタッフとして病児と交流しました。

このキャンプに参加するスタッフや子ども達と一緒に過ごすことで、日本とアメリカの糖尿病に対する価値観の違いや文化の違いを実際に体験することができました。

また、医療行為を見学し、子どもとのコミュニケーションや医療従事者との連携の重要性についても多くのことを学びました。特に、子どもたちとの関わり方や信頼関係の築き方を間近で

見ることができたのは、今後の看護職としての自分にとって大きな糧になると感じます。

今回の経験で得た学びや気づきを今後の学びや実習に活かし、将来、子どもや家族に寄り添える看護職を目指していきたいです。

2年生：平野愛藍さん

ビクトリア大学での留学を通して

ビクトリア大学は国際都市バンクーバーから飛行機で約30分、豊かな自然に囲まれた美しい島の中にあります。空気がおいしく花が咲き溢れ、思わずランニングに行きたくなるような街です。

4週間の語学研修は「間違えていい」という文化と雰囲気があるので、完璧さを気にせず、自分の考えを積極的に発言できました。この経験によって、自分の考えを伝えることは、正解不正解関係なく、「当たり前」のことであると実感させられました。日本での受験勉強や大学生活だけではなかなか得られない経験だったと思います。

授業で仲良くなった各国からのクラスメイトと遊びに行ったことも大切な思い出です。一緒に地図を開いて、お互いの国のおすすめの場所を伝えたり、文化を教え合ったりしながらコーヒーを飲む時間はとても楽しく、今でもよく思い出します。

自身の他国の医療や英語に対する興味を大切に、積極的に取り組んだことはこれから先の社会生活に役立つと信じています。講義を受けることや実習で忙しくなってしまうがちな大学生活の中でも、諦めずに挑戦して良かったです。

4年生：榎本菜々子さん・奥浜夏海さん・河口和奏さん・山本莉里さん

3年生：吉川真央さん

2年生：平野愛藍さん・藤井悠乃さん・村田葵さん



保健看護研究 II (3年次後期～4年次)

日常や看護の素朴な疑問や関心を研究課題とします。観察力と着想、その課題に最もふさわしい研究手法の選択、研究計画書の作成、実施など、研究のプロセスを学びます。

さらに、1年かけて取り組んだ研究の成果を学内で発表します。国内外の学会で発表し、論文を学術雑誌に投稿することも大切です。研究成果を世に公表して、看護学の発展につながるような価値ある研究を進めていきます。

私たちの研究テーマは「推し活を続ける影響」で、臨床で働く看護師の方々にインタビュー調査を行いました。推し活がストレスの軽減につながり仕事へのモチベーションを向上させ、職務継続に良い影響を与えていることが分かりました。この成果を学術集会で発表し、投票により優秀演題賞をいただくことができました。ゼミ活動を通じて、1つのことを深く掘り下げ、調査する力、分析・考察する力、発信する力が養われたと思います。この力を看護の現場でも活かしていきたいと思っています。

先生方の専門領域はそれぞれ異なり、自分の興味や関心のある先生のもとで、ゼミ研究を行います。

3～4人のグループで、自らテーマを選定し、疑問に思ったことや理解を深めたいことを探求していきます。



大学運営に学生が積極的に参画

学生たちの若い力と柔軟なアイデアで、様々な課題を解決してくことができると期待しています。今後、大学の運営に学生が参画できる機会を増やし、よりよい大学を目指すとともに、地域社会のリーダーとして貢献できる人材を育成します。

皆さん、こんにちは。自治会長を務めております田畑悠愛です。

私たち自治会は、学生生活をより充実したものにするため、さまざまな活動に取り組んでいます。特に、学年を超えた交流を深めることを目的に、毎年新入生歓迎イベントを開催し、キャンパスに新たな活気を生み出しています。

また、学校祭の運営をサポートし、学生同士が協力しながら一つの大きな行事を作り上げることを大切にしています。

さらに、学内のつながりを深める取り組みとして、退職される先生方への感謝を込めた花束の贈呈や、卒業生への記念品制作にも力を入れています。これらの活動を通して、大学生生活の思い出を大切に、その想いを次の世代へとつないでいきたいと考えています。

私たち自治会は、学生一人ひとりがより良い大学生生活を送れるよう、これからも積極的に活動してまいります。

今後とも、皆さんとともに魅力ある学びの場を築いていけることを楽しみにしています。

どうぞよろしく願いいたします。

令和7年度保健看護学部学生自治会長：田畑悠愛さん





共に高め合える仲間と共に看護観を磨く

池田 沙耶斗さん (2年生)



・志望動機

子どものころ祖母の見舞いによく行っており、人を支えている看護師さんの姿に魅力を感じ、看護師を志しました。生まれ育った和歌山県で学びたいと考え、看護師だけでなく保健師コースもあり、将来の選択肢が広がる点に惹かれ、本学を志望しました。

・講義や演習について

1年生では主に看護の基礎となる科目を学びました。看護学概論や看護理論は講義で、看護技術は演習を通して実践的に理解を深めました。講義では看護師としての物事の見方を学ぶことができ、これまでにない視点を獲得することができます。演習ではグループで協力しながら、先生にコツなどを教わり看護技術を確実に身に付けられます。また自主的に看護技術を磨く課外学習もあり、自分の納得がいくまで練習することができます。ケアマインド教育では患者のご家族の思いや医療従事者としての役割や考えなどに関するテーマについて、医学部生、薬学部生とともに意見を出し合って考えました。看護師だけでなく、他の医療職種立場としての視点も学ぶことができ、一つの課題を多角的に考えることで、学びを深めることができます。

・実習について

1年生では、1月に和歌山県立医科大学附属病院で基礎看護実習Ⅰを行いました。実習では病棟の設備や看護師の働き、患者との関わり方を学びました。患者さんの安全・安楽のための環境づくりや看護師さんの取り組み、カンファレンスなどを実際に見る機会を得ました。また、患者さんを受け持たせていただき、バイタルサイン測定やコミュニケーションなど実践することで、学内演習では気づけなかった臨床現場との違いを学びました。1日の終わりには、実習グループでカンファレンスを行い、他のメンバーの学びを共有したり、疑問点を一緒に考えていったりと様々な視点から物事を考えることができ、より深い学びを得ました。うまくいかず思い悩むこともありましたが、先生や臨床指導者がアドバイスをくださり、自分で考え、解決することができ、看護学生として成長を実感しました。

・大学生活について

本学は男子学生が少なく、最初はうまくやっていたか不安でしたがすぐに打ち解けることができ、楽しく大学生活を送っています。授業後や空き時間で友達と近くのお店に食事に行ったりボウリングに行ったりしています。また私はソフトテニスサークルに所属しています。サークルの活動は不定期ですが、活動ではソフトテニスなどスポーツをしたり食事に行ったりと楽しい時間を過ごしており、大学生活の大きな楽しみの一つです。勉強面ではテストが近くなると友人たちと学内に残って勉強し、わからないところは教え合うなどしています。

藤井 花さん (3年生)



・志望動機

将来、健康状態、生活環境や文化的背景など、あらゆる状況にある人々の心身をサポートしたいと考えています。そのために、様々な価値観を尊重する姿勢や豊かな人間性、看護学の専門知識と実践的な技術を獲得できる環境が整っている本学を志望しました。

・講義について

1年生では、身体の構造や看護の基礎を学び、各発達段階に応じた看護への理解を深め、2年生では、訪問看護、周術期看護、医療・福祉制度など、より専門的な知識を学習しました。豊富な臨床経験を有する教員や講師による現場で活かせる講義は、専門性が高く、初めて知ることが多くありました。

・演習や実習について

2年生では、モデル人形を用いた、無菌操作、採血や注射の演習があり、グループの仲間と協力して技術を習得しました。基礎実習では、学生1人が患者さん1名を担当させていただき、授業で学んだ知識や技術の理解を実践の場で深めることができました。また、統合実習Ⅰでは、複数の施設で実習する機会がありました。子育て支援施設では、共働き家庭の方々から子育てにおける不安や悩みを伺い、仕事と子育てを両立しながら健康で暮らすために必要な支援を考え、保健所では、引きこもりや虐待などの様々な課題を抱える家庭への実際の支援方法を学ぶことができました。さらに、企業では、働く世代の健康を守るための環境整備や面談方法などを知ることができ、対象者のニーズに応じた支援の必要を学びました。

・大学生活について

本学の国際交流やボランティア活動の機会は豊富です。私は長期休暇を活用し、インドネシア大学で公衆衛生を学び、カナダのビクトリア大学で現地の医療知識を深め、母語話者による生きた英語に触れる機会を得ました。そして、国際色豊かな学生と共に、自国の現状・医療・制度の比較・考察をしながら学び合い、異なる価値観に触れることができました。現地の医療シミュレーション教育施設訪問の際には、患者役として用意されていたモデル人形はとても精巧で、肌の色も数種類あり、多文化共生社会であるカナダでは、細部においても多様性に配慮されていると学びました。また、ボランティア活動として「和歌山県がん啓発プロジェクト」に取り組みました。がんの予防や早期発見について来場者の方々と直接対話する中で、年齢や背景に応じた、言葉の選択や効果的な情報伝達の重要性を改めて認識し、サポートの在り方を考える貴重な体験をしました。このように、学内外で多様な経験を積むことで、学びを一層深化させ、充実した日々を送っています。



中津留彩優さん（4年生）



・志望動機

私は助産師を目指しており、その第一歩として助産学専攻科が設置されている本学を志望しました。また、さまざまな施設での実習ができ、生まれ育った和歌山で地域に寄り添った看護を学ぶことができるところに魅力を感じました。

・保健看護学部の魅力

講義や演習、実習ではグループで活動することが多く、また1学年80人程度と少人数であるため、仲間と助け合ったり協力したりできる環境が整っているところが魅力だと感じています。また、それぞれの学年に担任の先生がつき、親身になって相談に乗ってくださり、先生方のサポートがあるため、安心して大学生活を送ることができます。

・臨地実習について

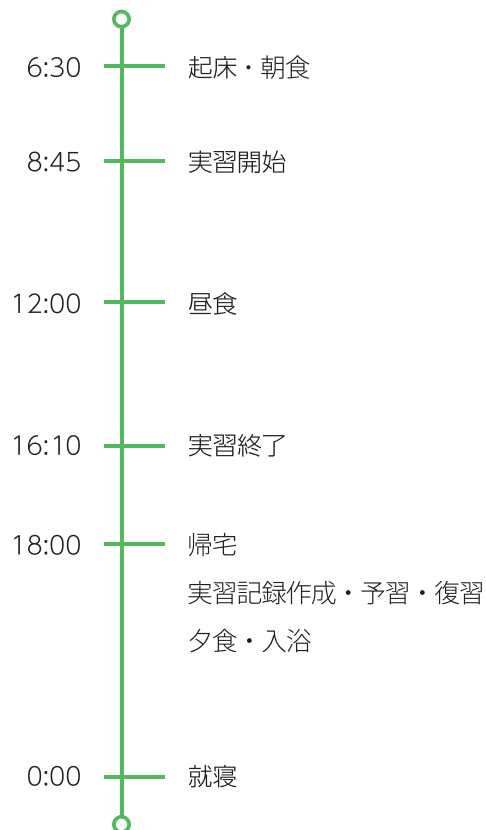
病院や地域の臨地実習は3年生の9月から4年生の7月まで約1年間あります。主な実習施設は和歌山県立医科大学附属病院で、1グループ8名程度に分かれて、成人、老年、精神、小児、母性、在宅といった領域ごとに2～3週間ずつローテーションして、実習を行います。保健師コースでは病院での領域実習に加えて、保健所や保健センターなど地域での公衆衛生看護実習を行います。

領域実習では1人の患者さんを担当させていただき、看護師さんや教員からのサポートや助言をいただきながら看護を行います。公衆衛生看護実習では地域の住民と関わりながら地域の健康問題をグループで見出していき、住民の健康を守るための活動を考えていきます。慣れない環境で緊張することも多く、日々の課題や学習量が多いことから、実習は大変だと感じることもありますが、患者さんとの関わりや指導者や教員からの助言から、実習でしか得られないたくさんの気づきや学びを得ることができました。また、患者さんが自分との関わりによって良い方向に向かっている姿を見ると、やりがいを感じることができます。実習を通して、たくさんの知識が身につく、自身の看護観を深めることができます。実習で不安になるときもありますが、グループで助け合いながら乗り越えていくことで、絆が深まります。

・余暇の過ごし方

長期休みには旅行に出かけています。旅行を楽しみに講義や実習を頑張り、時間を作りアルバイトも行っています。また、長期休み以外でも友達と遊んだり、部活動を楽しんでいます。

・タイムスケジュール（実習日）



・ゼミについて

ゼミ活動は3年生後期から4年生にかけてあり、教員1人に学生2～4人がついて研究を行います。学生が主体的に興味を持った分野について研究テーマを決め、教員の指導を受けながら進めていきます。研究活動では初めてのことが多く難しく感じることもありますが、先生が親身になって指導してくれます。また、グループで協力し合うことで、より深く学べることに楽しさを感じます。





クラブ紹介

- 茶道部
- わくわく子育てボランティア
- ミュージックボランティアクラブ
- 手話サークルmilk
- 軽音楽部
- 美術部
- 音楽研究部
- ESS部
- 演劇部
- Wakayama Will (災害ボランティアサークル)
- アカペラ部
- 釣魚部
- 米国医学研究会×USMLE
- 裏千家茶道部
- 華道部
- 手芸サークル
- クイズ研究会
- ダンスサークルINTACT
- 卓球部
- 柔道部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 準硬式野球部
- 合気道部
- 空手道部
- バスケットボール部
- サッカー部
- 陸上競技部
- 剣道部
- ラグビー部
- フットサル部
- 水泳部
- 漕艇部
- 硬式庭球部
- 軟式庭球部
- ヨット部
- スキー・山岳部
- ゴルフ部
- 軟式野球部
- ソフトテニスサークル

一緒に泣いて笑える仲間を作ることができます。



Wakayama Will (災害ボランティアサークル)



剣道部



バドミントン部



茶道部



わくわく子育てボランティア



手話サークル milk



ミュージックボランティアクラブ



ダンスサークル INTACT



バスケットボール部



合気道部



水泳部



女子バレーボール部



ソフトテニスサークル



漕艇部



軽音楽部



社会に羽ばたき自分らしさが花開きます

看護師 大野菜々美さん
(令和4年度卒業生)



和歌山県立医科大学附属病院 勤務4年目

私は、心臓血管外科・呼吸器乳腺外科、救急科病棟で勤務しています。主に手術を受ける患者を対象に、術前から術後までの継続した看護を行っています。手術に対する不安や緊張を抱える患者に寄り添い、安心して治療に臨めるよう支援するとともに、術後は全身状態の変化を注意深く観察し、合併症の予防や早期回復に努めています。また、多職種と連携しながら、早期リハビリテーションや退院指導を行い、患者が安全に日常生活へ戻れるよう早期退院に向けた支援にも力を入れています。

さらに、治療の選択や病状の進行により、終末期を迎える患者もおられるため、その人らしい時間を大切にできるよう、身体的・精神的な苦痛の緩和や家族への精神的サポートの役割も担っています。

患者一人ひとりの思いや背景を大切にしながら、その時々に必要な看護を提供し、少しでも安心して過ごしていただけるよう、これからも丁寧な看護を実践していきたいと考えています。

保健師 中村 葵さん
(令和5年度卒業生)



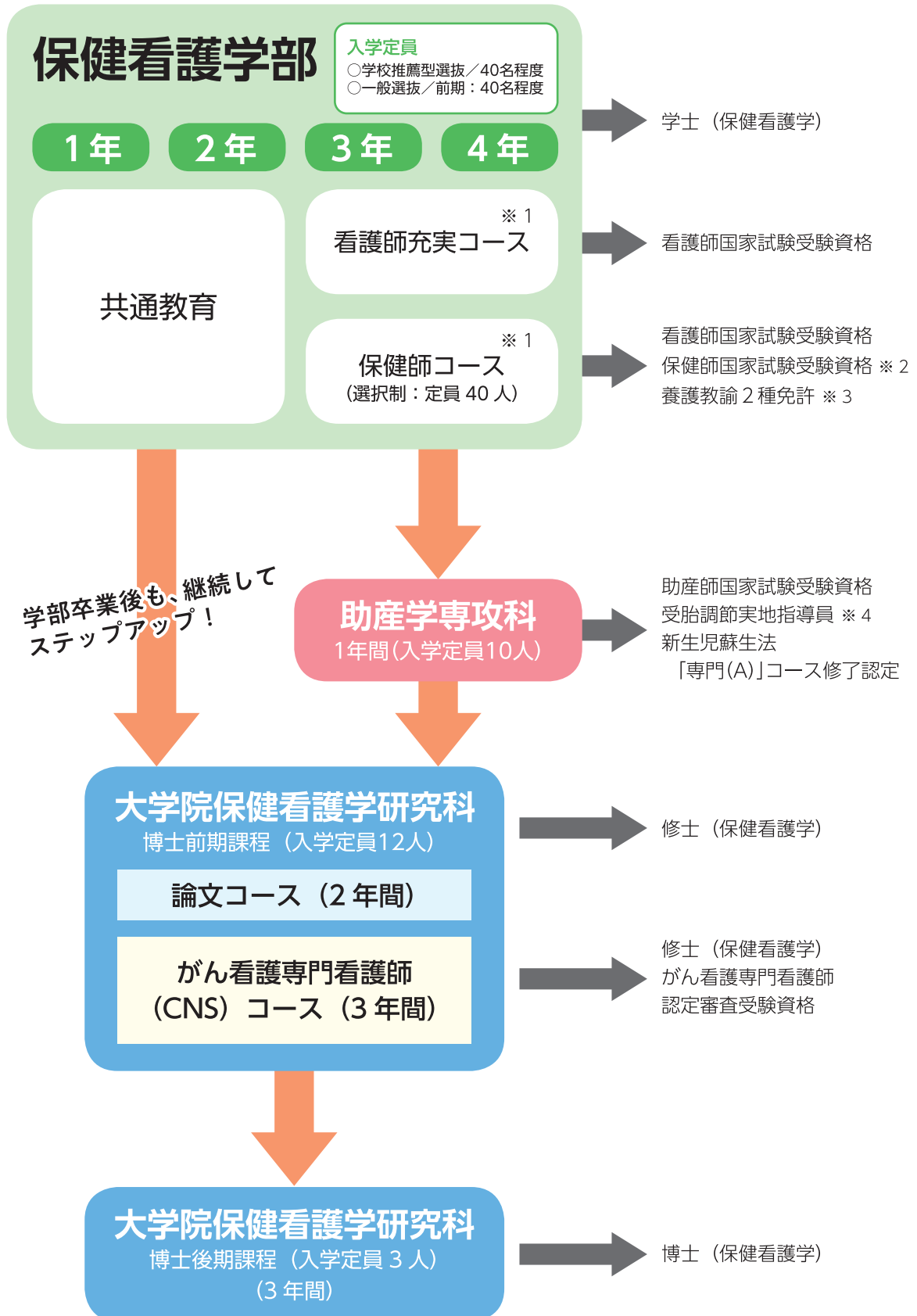
有田市保健センター 勤務3年目

私は現在、有田市保健センターに勤務しています。母子保健を担当しており、地域で暮らす母子とその家族が有田市で安心して子育てしていけるようにサポートさせていただいています。市町村で働く保健師として、地域で暮らすお子さんが成長していく過程を、訪問や健診を通して継続して見守っていけるところに魅力を感じます。実際に、赤ちゃん訪問で関わったお子さんが健診に来所し、成長している姿を見ると嬉しく思います。まだまだ未熟で大変に思うことも多いですが、市民さんや先輩方から日々多くのことを教えてもらいながら活動できています。今後も、大学で学んできたことや職場で経験したことを生かし、保健師として頑張りたいと思います。

		和歌山県内	和歌山県外
就職	看護師	和歌山県立医科大学附属病院 海南医療センター 国保野上厚生総合病院 日本赤十字社和歌山医療センター 国立病院機構南和歌山医療センター 和歌山ろうさい病院 済生会和歌山病院 角谷整形外科病院 訪問看護ステーション麒麟 楠見訪問看護ステーションすずらん	大阪公立大学医学部附属病院 大阪大学医学部附属病院 大阪母子医療センター 大阪急性期・総合医療センター 大阪ろうさい病院 近畿大学病院 堺市立総合医療センター など
	保健師	和歌山県・県内市町村	大阪府・大阪市・堺市 など
進学		和歌山県立医科大学助産学専攻科 和歌山県立医科大学大学院	大阪公立大学大学院看護学研究科 大手前大学大学院国際看護学研究科 大阪医専助産師学科 愛仁会看護助産専門学校助産学科 など



学位・資格取得によるキャリアアップを支援します



- ※1 看護師充実コースと保健師コースは一部履修科目が異なります。
- ※2 保健師コース修了者のみ受験資格があります。また、保健師免許は看護師免許がないと取得できません。
- ※3 保健師免許を取得後、都道府県教育委員会への申請を要します。
- ※4 都道府県知事への申請を要します。



保健看護学の未来を担う、高度臨床実践者・教育者・研究者を育成します。

学部での学びをさらに発展させます

教育課程	博士前期課程保健看護学専攻		博士後期課程 保健看護学専攻
	論文コース	がん看護専門看護師 コース	
教育理念	<p>広い視野と高邁な倫理観に立ち、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・介護・福祉に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野相互の連携の重要性が理解できる資質の高い保健看護職者と健康関連専門職者を育成する。</p> <p>また、本学保健看護学部の使命である「地域に根ざした保健看護学の考究」の推進者として、地域の人々の健康の保持増進、疾病・障害に伴う諸問題を含め、倫理的・科学的な研究に対する意欲をもち、自律して質の高い計画を立案・実行し、社会のニーズに柔軟かつ豊かに対処することができる健康づくりに関わる専門職業人として能力の向上をめざす。</p>		<p>広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野における健康づくりに寄与できる教育・研究者を育成し、地域における人々の健康に貢献する。</p>
アドミッションポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 保健看護学分野における専門性を高めるための研究に意欲をもつ人 保健看護学以外の領域で学んだ知識と技能を保健看護学の研究へ応用、発展しようとする人 本課程で学ぶ知識と技能を医療や医療以外の領域へ応用、発展しようとする人 地域医療への貢献を研究的視点にもつ人 		<ol style="list-style-type: none"> 保健看護学に関する高い関心と研究への強い意欲をもつ人 保健看護学の発展と社会福祉の向上に熱意をもつ人 保健看護学への貢献を研究的視点にもつ人 保健看護学の専門職業人として、高度な専門知識の更新、リカレント教育に取り組もうとしている人
専攻領域	<input type="radio"/> 健康科学領域 <input type="radio"/> 基盤看護学領域 <input type="radio"/> 生活・地域保健学領域	<input type="radio"/> 基盤看護学領域がん看護学	<input type="radio"/> 生涯保健看護学領域 <input type="radio"/> 地域保健看護学領域
選抜方法	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜
入学試験	一般選抜、社会人選抜ともに英語、専門科目、面接を行う		
入学定員	12名		3名
修業年限 ^(*)	2年	3年 (長期履修制度利用)	3年
取得できる学位・資格	修士 (保健看護学)	修士 (保健看護学) がん看護専門看護師 認定審査受験資格	博士 (保健看護学)
学生支援	日本学生支援機構による奨学金制度 (社会人は申請することができません。)		

(*) 長期履修制度あり



博士前期課程（修士課程）

健康科学領域

身体的、精神的、社会的側面から「健康」をとらえ、関連する諸科学において学際的に探求する領域

専攻分野

- 健康増進学
- 運動器疼痛リサーチ & マネジメント学
- 発育・育成学
- メンタルヘルス学
- 社会予防疫学
- 対人援助コミュニケーション学

基盤看護学領域

看護学の専門性に対応した看護学各分野における実践者、研究者、教育者の育成を目指す領域

専攻分野

- 基礎看護学
- 高齢者看護学
- 慢性看護学
- 急性看護学
- がん看護学

生活・地域保健学領域

家庭、地域、職域等、人々の生活の場における健康づくりのプロフェッショナルを育成する領域

専攻分野

- 母性保健学
- 小児保健学
- 地域看護学
- 在宅ケア看護学
- 環境保健学

授業科目

■ 共通科目（必修）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・保健看護学研究法
- ・英語文献講読
- ・保健看護情報統計学

論文コース

- ・特別研究

がん看護専門看護師コース（必修）

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント
- ・病態生理学・課題研究

■ 共通科目（選択）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・ヘルスケアエシックス・保健看護学概論
- ・健康マネジメント政策論・看護教育論・看護管理論
- ・看護理論・コンサルテーション論・健康測定評価論
- ・健康栄養学・家族看護学・医療と法

論文コース

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント・病態生理学

■ 健康科学領域

- ・健康増進学特論
- ・健康増進学演習
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学特論
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学演習
- ・発育・育成学特論
- ・発育・育成学演習
- ・メンタルヘルス学特論
- ・メンタルヘルス学演習
- ・社会予防疫学特論
- ・社会予防疫学演習
- ・対人援助コミュニケーション学特論
- ・対人援助コミュニケーション学演習

■ 基盤看護学領域

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・高齢者看護学特論
- ・高齢者看護学演習
- ・慢性看護学特論
- ・慢性看護学演習
- ・急性看護学特論
- ・急性看護学演習
- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習
- ・がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ*
- ・がん看護学実習*
- ・がんリハビリテーション看護A・B*
- ・緩和ケアA・B*

*がん看護専門看護師コース必修

■ 生活・地域保健学領域

- ・母性保健学特論
- ・母性保健学演習
- ・小児保健学特論
- ・小児保健学演習
- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・在宅ケア看護学特論
- ・在宅ケア看護学演習
- ・環境保健学特論
- ・環境保健学演習

博士後期課程（博士課程）

生涯保健看護学領域

- 母子保健看護学
- 成人期保健看護学
- 高齢期保健看護学

地域保健看護学領域

- 地域保健看護学

授業科目

■ 共通科目（必修）

- ・保健看護学研究法
- ・後期特別研究

■ 共通科目（選択）

- ・健康管理論
- ・生活支援看護学

■ 生涯保健看護学領域

- ・母子保健看護学特論
- ・成人期保健看護学特論
- ・高齢期保健看護学特論

■ 地域保健看護学領域

- ・地域保健看護学特論



大学院生メッセージ



辻本 裕子さん（博士前期課程2年生）

行政保健師として勤めて25年、変わりゆく社会の中で多様化する健康課題に向き合ってきました。その中で、求められる役割に十分応えられないもどかしさを感じ、課題を分析し、施策につなげる力を高めたいと思い、大学院進学を決意しました。仕事との両立は簡単ではありませんが、年齢も分野も異なる仲間との学びは刺激的で、日々の実践を理論と結びつけながら深く考える時間はとても有意義です。一歩踏み出したことで、新しい視点や可能性が広がりました。

迷っている方には、ぜひその一歩を大切にしてほしいと思います。

野下 未来さん（博士前期課程2年生）

私は、在宅看護に魅力を感じ、病院勤務を経て訪問看護の現場で勤務してきました。生活の場でその人らしさを支える看護の奥深さと魅力を学生に伝えたいとの思いから、看護教育に携わるようになりました。

学生と向き合う中で、共に学び成長し続ける姿勢の大切さ、そして自らも学び続けることの重要性を改めて実感しました。一方で、実習指導の難しさに直面し、「どのような関わりが学びを深めるのか」と問い続けるようになりました。経験にとどまらず理論や研究の視点から看護教育を捉え直したいと考え、進学を決意しました。仕事と学業の両立は容易ではありませんが、多様な専門職の方々と学び合う講義は大きな刺激となり、新たな視点を獲得の機会となっています。本当に大学院に来てよかったと実感しており、この学びを今後の実践と教育へ還元していきたいと考えています。



岡村 凌佑さん（博士後期課程2年生）

私は、臨床現場で働く中で、少しでも疑問を持ち、解決できる力をもって患者さんに還元できるような看護師になりたいという思いから看護師4年目に博士前期課程に進学しました。博士前期課程の2年間では、胃切除術後の安定期で外来通院されている患者さんを対象に研究をさせていただきました。この研究で、短い在院日数の中で退院後をよりイメージして病棟看護師としてできることを深く考えることができるようになったと思っています。

そして博士前期課程での研究をより深く行いたいと思いから看護師9年目で博士後期課程に進学しました。博士後期課程では、講義は博士前期課程ほど多くはありませんが、その分研究に費やす時間が多くなるということです。大学院に進学し、研究を通してたくさんの人と出会うことができ、臨床現場だけでは学べなかったことをたくさん学ぶことができます。また、現場で働きながらも学べる環境であることも大きな魅力の1つです。

博士後期課程での研究も始まったばかりですが、少しでもこの学びを活かすことができるよう頑張っていきたいと思っています。



女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができる専門職を育成します。
また、人との出会いとふれあいを大切にしたい教育を目指します。

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科では大学の教育理念に基づき次のような人を求めています。

- 科学的探究心と豊かな人間性・高邁な倫理観を希求する人
- 助産学を修得するための幅広い能力を有する人
- コミュニケーション能力を備えた協調性の高い人
- 地域母子保健に関心があり、国際的視野を希求する人
- 生涯にわたって自立と自律をめざす人

カリキュラムポリシー(教育課程方針)

教育課程は「基礎領域」「実践領域」「関連領域」の3領域で構成しています。

- 基礎領域では、助産師の役割や助産業務の遂行に必要な生命倫理、子どもの健やかな成長発達支援のための理論や支援方法に基づいた教育
- 実践領域では、助産診断・技術学を中心に講義や演習によって妊産褥婦・新生児の健康状態を診断しケアを計画し実践できる教育、また助産師による地域母子支援及び関係機関との連携する力を獲得できる教育
- 関連領域では、助産学研究や助産学に対する課題解決力や医療職として生涯にわたって自己研鑽力を身につける教育、及び母子保健を国際的な視点でとらえ、幅広く活動できる人材を育成する教育

ディプロマポリシー(修了証書授与方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科は所定の単位を修得し、以下の能力を獲得した者に修了証書を授与します。

- 助産師として高い倫理観を基盤として、対象を理解し尊重することができる
- 妊娠・分娩・産褥経過および新生児期において診断できる能力を備え、正常からの逸脱を判断し異常を予測したケアを提供することができる
- 女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対して、支援するための基礎的能力として知識・技術・コミュニケーション力を有している
- 国際的視野を持ち、保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して地域社会に貢献することができる
- 知的好奇心を持ち生涯を通じて自己研鑽することができる

修業年限 1年
入学定員 10名
実習施設

【病院】

和歌山ろうさい病院
ひだか病院
紀南病院
はまだ産婦人科
和歌山県立医科大学附属病院

【助産院】

岡本助産院
ちひろ助産院
むとう助産院
翠助産院

授業科目一覧

授 業 科 目		単位数		修了要件
		必修	選択	
基礎領域	助産学概論	1		必修 34単位 選択 1単位 以上
	妊娠期の異常	1		
	分娩・産褥・新生児期の異常	1		
	生殖医療と生命倫理	1		
	親子関係発達論	1		
	母子の栄養学	1		
実践領域	助産診断・技術学Ⅰ(妊婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅱ(産婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅲ(母子)	2		
	助産診断・技術学Ⅳ(思春期・更年期・老年期)	1		
	子育て支援論	1		
	健康科学教育論	1		
	助産管理	2		
	成育医療	1		
	助産学実習	12		
	助産管理実習	1		
	産科救急・新生児蘇生法	1		
	助産学研究	1		
関連領域	周産期のメンタルヘルス	1		
	アクティブバースへのケア		1	
	助産師と国際活動		1	
合 計		34	2	35単位以上



主な年間スケジュール

4月 入学式、オリエンテーション
前期講義、演習

5月 講義、演習

6月 地域母子保健
新生児蘇生法「専門(A)」コース修了認定

7月 技術テスト、前期試験
オープンキャンパス

8月 夏期休業（実習準備）

9月 助産学実習（9月～11月末）
・分娩介助
・継続事例への助産ケア及び1ヵ月健診
・保健指導など

10月

11月

12月 助産管理実習
実習報告会
冬期休業

1月 助産学研究発表会（事例）
後期講義
後期試験

2月 国家試験受験
入職前演習（教科外プログラム）

3月 修了式
受胎調節実地指導員



会陰縫合演習



新生児蘇生法(Aコース)



母子の栄養学：調理実習



マザークラス発表



助産学専攻科修了生からのメッセージ

助産師 土岐綾音さん
(令和7年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務1年目

助産学専攻科の1年間は、これまでに経験した中で最も密度が濃く、心身ともに大きく成長できた充実した時間だったと感じます。講義や演習は専門性が高く、課題も多いため戸惑うこともありましたが、同じ目標をもつ仲間と支え合いながら学ぶ日々は、私にとってかけがえのない時間となりました。また、少人数制のもとで先生方から丁寧な指導を受け、自分の課題を明確にしながら主体的に取り組むことができました。

9月からの助産学実習・助産管理実習では、自身の知識や技術の不足を実感し、悩み葛藤することもありました。しかし、臨床指導者や先生方の支えもあり、経験を重ねることで、できることが少しずつ増えていく喜びを感じました。実習で妊産婦さんからの「ありがとう」という言葉や、新しい命の誕生に立ち会えた経験から、助産師の責任とやりがいを実感しました。改めて助産師として母子を支えたいという思いをより強くしてくれました。この専攻科での学びと仲間との出会いを大切に、これからも努力を続けていきたいと思えます。助産師を志す皆さまの入学を心より応援しています。



助産師 松浪そらさん
(令和5年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務3年目



助産学専攻科での学生生活は、講義や演習、臨地実習が密接に結びついた、充実した1年間でした。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を通して母子を継続的に支える助産師の役割を学びました。3か月間の助産学実習では、命を預かる責任の重さと判断力の重要性を学びました。思うようにいかないことも多く、悩みながら学ぶ日々でしたが、先生方や臨床指導者さんの丁寧な指導、仲間との支えあいの中で、助産師としての姿勢を身につけることができました。

就職後2年間は、新生児集中治療室（NICU）に配属されました。助産学専攻科で学んだ知識と技術をもとに、母体・胎児・新生児を一体として捉える助産師の視点はNICUにおいても大きな強みとなりました。ディベロップメンタルケアを通して、赤ちゃんが成長し無事に退院していく姿やご家族の安心した表情を見るたび、大きなやりがいを感じています。

助産師は産科だけではなく、幅広い分野で専門性を発揮できる魅力のある職業です。

助産師を目指す皆様の入学を応援しています。

助産学専攻科修了後の主な就職先

- 和歌山県立医科大学附属病院
- 紀南病院
- ひだか病院
- 和歌山ろうさい病院
- 大阪大学医学部附属病院
- 大阪公立大学医学部附属病院
- 関西医科大学総合医療センター
- 大阪母子医療センター
- 大阪ろうさい病院
- 淀川キリスト教病院
- 愛染橋病院
- 京都大学医学部附属病院
- 加古川中央市民病院
- 岡山医療センター

入学金等

	保健看護学部		大学院保健看護学研究科		助産学専攻科	
入学検定料	17,000円		30,000円		18,000円	
入学金	県内生	282,000円	博士前期課程	282,000円	県内生 (学内生含む)	169,200円
	県外生	423,000円	博士後期課程	282,000円	県外生	253,800円
授業料 (5月と11月に分納)	535,800円		535,800円		535,800円	

授業料等減免制度

経済的理由によって授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認められる者を対象に、授業料等の全額もしくは一部が免除される場合があります。

- *希望する場合は、保健看護学部事務室に相談してください。
- *本学は、「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく高等教育の修学支援新制度の対象機関（確認大学）です。

奨学金

- 日本学生支援機構
- 和歌山県立医科大学修学奨学金
- その他

表彰制度

- 他の学生の模範となる学生を卒業時に表彰します。
- 知事賞／成績優秀者を表彰
 - 学長賞／成績優良で他の模範となる学生を表彰

大学図書館

本学には、紀三井寺キャンパスに紀三井寺館、三葛キャンパスに三葛館、伏虎キャンパスには伏虎館という三つの大学図書館があり、学生は全ての図書館を利用できます。

保健看護学部がある三葛キャンパスに位置する三葛館は、約67,000冊の図書やCD・DVDなどの視聴覚資料、約1,100種類の学術雑誌を所蔵しているほか、学習や研究に必要な文献などを探するためのデータベースや電子ジャーナル、電子ブックなどの電子リソースも利用でき、新しい知識を得るための環境が整っています。

図書館三葛館ウェブサイト：

<https://opac.wakayama-med.ac.jp/drupal/mikazura>

きめ細かな学生サポート体制

オフィスアワー

学生のための時間を全教員が週に一度設け、学習指導や学生生活での相談などを受け、学生がきめ細やかな助言・指導を受けられる環境を提供しています。

カウンセリング

週に一度、外部のカウンセラーによるカウンセリングを開設しています。学習面や進路のことなど気軽に相談できます。

担任制

保健看護学部は、4年間の学生生活を担任教員がサポートします。自分のことをよく知ってくれている教員がいるので安心です。





山や海に囲まれた自然豊かな和歌山で保健看護学を通して自分の可能性を広げよう



看護実習室



図書館

- ① 管理・校舎棟
- ② 図書館棟
- ③ 体育館棟
- ④ 研究棟
- ⑤ 医学部三葛教育棟



大学生協



体育館



学生ホール・食堂



大講義室



- 天王寺～和歌山駅 JR阪和線（快速）約1時間
- JR紀三井寺駅下車 東口より 徒歩約10分
- JR和歌山駅より和歌山バス三葛停留所下車 徒歩約10分
- 阪和自動車道 和歌山南SICより 車約10分



公立大学法人
 和歌山県立医科大学保健看護学部
 大学院保健看護学研究科
 助産学専攻科

〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地 TEL 073-446-6700 FAX 073-446-6720
<https://www.wakayama-med.ac.jp/>

＼大学ホームページ／

＼大学案内／

